

【 会員からの投稿 】

不惑の年の土木技術者が NPO で飯を食う

法人正会員 NPO 法人道普請人 常務理事 福林 良典

私は、2007年12月にNPO法人道普請人の設立以来理事として、その活動を生業として今日に至っています。同年9月末に博士後期課程単位取得認定退学、同年11月に学位を取得したところでした。これまでの団体運営を振り返り、感じることを述べさせていただきます。



ネタを育てる

博士後期課程の研究成果をより発展させ社会に寄与するため、NPO法人道普請人を立ち上げその活動（活動の詳細は当団体ホームページを参照ください。<http://coreroad.org/>）を続けています。途上国の人々の生活道路の通行性を改善し、そのくらしを豊かにすることを目指しています。

指導教官であり理事長の信用、役員の子戚友人らの厚意による支援と小規模な（人件費や管理費が助成対象外）助成事業を獲得し、実績を積み重ねてきました。活動開始当初はホームページの団体活動ニュースのネタに困っていましたが、今では毎月世界のどこかで団体関係者が活動する、というニュースを更新できることをうれしく感じています。

独りよがりではなく、一般、土木や国際協力の世界で評価、期待されるようにもなりました。2014年1月には安倍首相のアフリカ連合での演説『「一人、ひとり」を強くする日本のアフリカ外交』、【若者に明るい未来を】の章で、格好の事例として本団体名とその活動が紹介されました。役員や職員、学生からシニアに至る活動協力者の努力の成果です。土木系NPOが国際社会の中で日本ブランドの一端を担っていると、胸を張りたいと思います。

自分を成長させてくれたガマン大会

設立当初は実家を事務所とし、事務作業は年金暮らしの両親に頼らざるを得ない状態でした。今では独立した事務所を持ち職員を雇用し、家族ボランティア運営の域を脱することができました。

まずは財産目録中の正味財産額を増加させたことにより、定期的な管理費の支払い、前払いを受けない委託事業の実施、現地の要望に臨機応変に応える自己資金事業の実施が可能になりました。この発展課程に当事者として身を置き経験したことは、私の人生にとって大きな宝物です。

実は先行きの見えない中、途中で逃げ出そうとしたこともありました。理事長が強い情熱で手本を示し辛抱強く指導していただいたこと、健康で独立採算の両親や妻が理解し応援してくれたことに、感謝しています。

団体使命の実践のための法人経営

「非営利活動法人」という名前から、ボランティアや薄給で活動する集団と捉えられがちです。「団体設立趣旨の活動をいかに実現、実践するか」を考えると、ヒト、モノ、カネをどう工面するかが重要になります。

ボランティアのできる活動の範囲には限界があると感じています。相応の対価を得て行う業務に、気持ちが入り創意工夫が促進され実力を最大限に発揮する傾向があるのではないのでしょうか。

その実現には会社経営ノウハウに活かせる部分があると考えます。非営利活動法人だからと甘えない、人並みまたはそれ以上の給料もとりに世間に認められる、認めさせるパフォーマンスを発揮できるように団体活動レベルを向上させる必要があります。経営本やビジネス書に関心を持つようになりました。

おもろい人間を目指して

今後も初心を忘れず、高いレベルの仕事をするプロ意識を持って団体運営に従事する所存です。新事業を立ち上げるような攻めの経営者、開拓者の素養を身に着けたいと考えています。

国際協力歴40年以上の理事が、「おもろないとイカン」と口癖のように助言をくれます。広い視野と知識を得よう自己研鑽を続けながら、ユーモア感覚を持ち明るく、団体活動に従事したいと考えています。NPO法人道普請人の活動ぶりが、土木技術者にとり魅力的なNPOのモデルになればうれしく思います。今後ご期待ください。